

決算説明会

2018年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社
2018年2月7日

1Q-3Q累計連結業績ハイライト

**売上高、営業利益、経常利益、純利益
すべてが1Q-3Q累計期間として過去最高**

(百万円)	2017年3月期 1Q-3Q累計	2018年3月期 1Q-3Q累計	前年比 伸び率	2018年3月期通期	
				11月時予想	達成率
売上高	442,508	654,927	+48.0%	810,000	80.9%
営業利益	34,715	64,389	+85.5%	73,000	88.2%
経常利益	34,772	64,515	+85.5%	72,000	89.6%
親会社株主に帰属する 純利益	24,912	51,555	2.1倍	57,000	90.4%
一株当たり 純利益 (円)	66.46	122.40	+84.2%	135.51	90.3%

為替レート	17/3期 1Q-3Q	18/3期 1Q-3Q
US\$	106.92円	111.68円
ユーロ	118.73円	127.88円
タイバーツ	3.04円	3.32円
人民元	16.06円	16.55円

2018/2/7

2

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

第3四半期の連結実績についてご説明申し上げます。

2018年3月期第3四半期累計の売上高は6,549億2,700万円、営業利益は643億8,900万円、純利益は515億5,500万円となりました。

前年同期比では、それぞれ 売上高で48.0%増、営業利益で85.5%増、純利益で2.1倍となり、売上高、営業利益、経常利益、純利益のすべてにおいて、第3四半期累計期間としての過去最高を大幅に更新いたしました。

これは、昨年1月に経営統合したミツミ事業の大幅な生産性改善が収益に大きく貢献したことに加え、ボールベアリング、モーター、LEDバックライト等の主力製品が堅調に推移したことによるものです。

為替の影響は、売上高で前年同期比プラス275億円、営業利益で前年同期比プラス23億円、との推計です。

3Q連結業績ハイライト

**売上高、営業利益、経常利益、純利益
すべてが3Qとして過去最高**

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	167,375	235,823	225,900	+35.0%	-4.2%
営業利益	16,120	24,889	22,437	+39.2%	-9.9%
経常利益	15,857	24,789	22,353	+41.0%	-9.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,167	20,095	17,278	+42.0%	-14.0%
一株当たり 四半期純利益 (円)	32.44	47.72	41.22	+27.1%	-13.6%

為替レート	17/3期3Q	18/3期2Q	18/3期3Q
US\$	106.13円	110.92円	112.65円
ユーロ	116.04円	129.65円	132.47円
タイバーツ	3.02円	3.31円	3.41円
人民元	15.62円	16.53円	16.95円

2018/2/7

3

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

2018年3月期第3四半期の売上高は2,259億円、営業利益は224億3,700万円、純利益は172億7,800万円となりました。

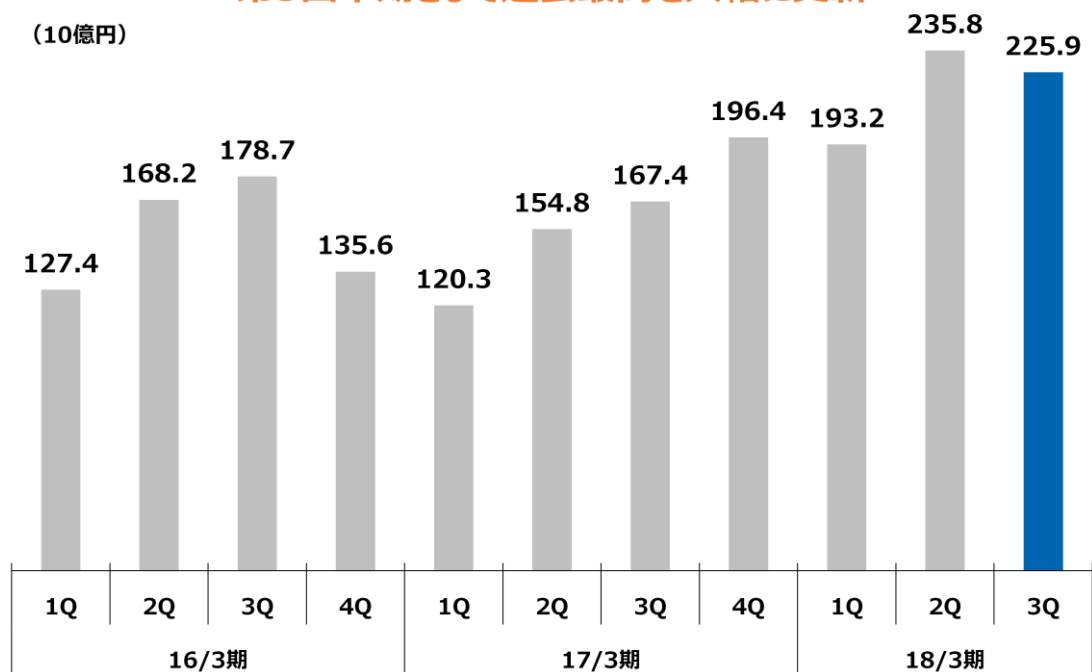
前年同期比では、それぞれ 売上高で35.0%増、営業利益で39.2%増、純利益で42.0%増、同じく前四半期比では、売上高で4.2%減、営業利益で9.9%減、純利益で14.0%減となり、売上高、営業利益、経常利益、純利益のすべてにおいて、第3四半期としての過去最高を大幅に更新いたしました。

前年同期比で大きく増加した理由は、ミツミ事業の統合のほか、ボールベアリングを中心とする機械加工品が堅調に推移したことによるものです。

為替の影響は、売上高では前年同期比でプラス127億円、前四半期比でプラス32億円、営業利益では前年同期比でプラス5億円、前四半期比でプラス0.4億円、との推計です。

第3四半期として過去最高を大幅に更新

(10億円)



2018/2/7

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

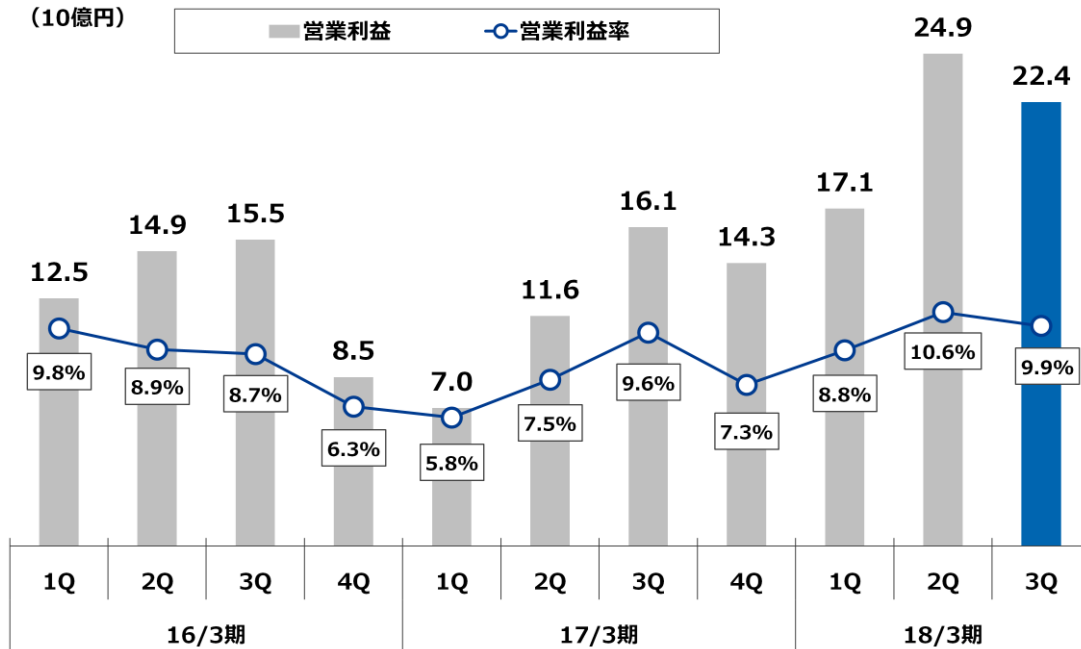
このグラフは、売上高の四半期ごとの推移を表したものです。
第3四半期は2,259億円と、第3四半期として過去最高を大幅に更新いたしました。

第3四半期として過去最高を大幅に更新

(10億円)

■ 営業利益

○ 営業利益率



2018/2/7

5

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

このグラフは、営業利益の四半期ごとの推移を棒グラフで、営業利益率の推移を折れ線グラフで表しております。

第3四半期は224億円と、第3四半期として過去最高を大幅に更新いたしました。

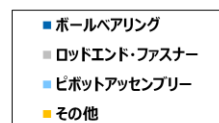
また、前年同期比での増益は5四半期連続です。

機械加工品事業セグメント

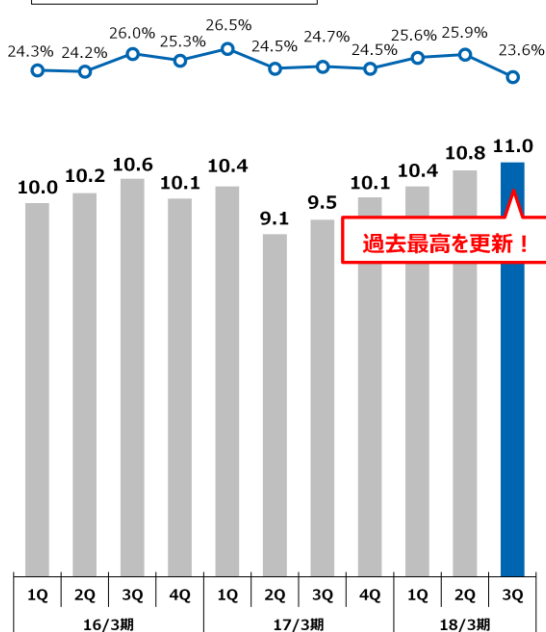
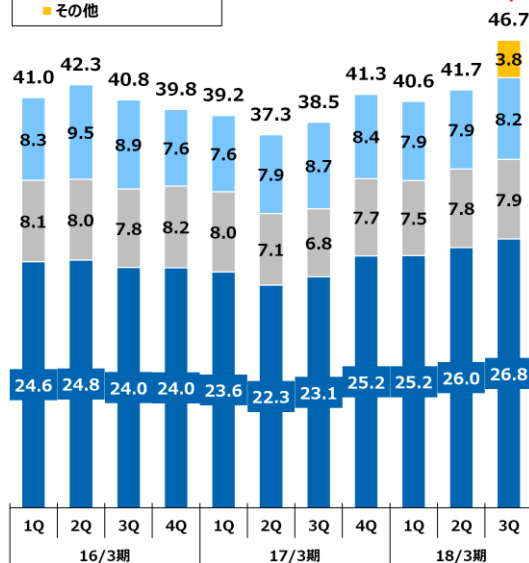
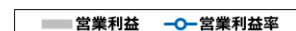
四半期推移

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



過去最高を更新！



過去最高を更新！

2018/2/7

6

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

機械加工品事業セグメントについてご説明いたします。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

売上高は467億円、前四半期と比べて12%の増加となり、過去最高となりました。なお、当第3四半期から米C&A Tool Engineeringと仏Mach Aeroを、機械加工品事業セグメントの「その他」として新規連結しています。

ボールベアリングの売上高は268億円、前四半期比で3%の増加となりました。ボールベアリングの数量でございますが、外販数量は月平均で過去最高の1億9,300万個となり、21四半期連続で前年同期を上回りました。また生産数量は、11月に過去最高となる2億8,200万個に達し、本年4月までの目標である月産2億8,500万個までの生産能力増強は、達成目前となっております。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は79億円となり、前四半期比で1%の増加でした。

ピボットアッセンブリーは82億円となり、前四半期比で4%の増加でした。なお、当社シェアは80%超を維持しており、安定的に収益に貢献しています。

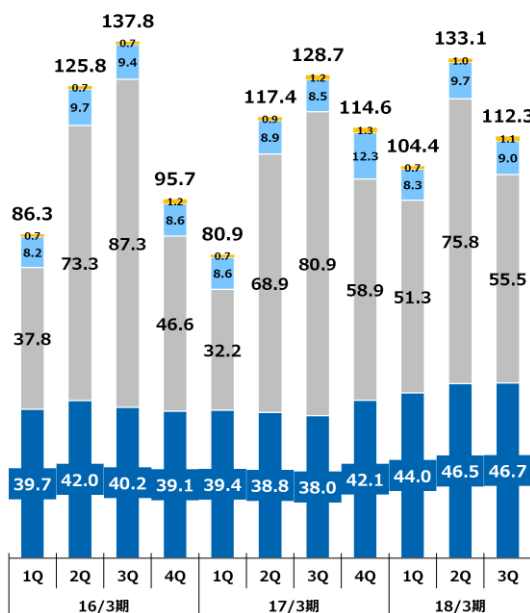
営業利益でございますが、第3四半期は110億円と過去最高を更新し、営業利益率は23.6%となりました。

これは、前四半期比で2%の増加、営業利益率では2.3ポイントの低下となります。C&A Tool EngineeringとMach Aeroを除いた場合の営業利益は、前四半期からほぼ横ばいでした。

製品別では、ボールベアリングおよびロッドエンド・ファスナーは前四半期比で増益、ピボットアッセンブリーはわずかに減少となっております。

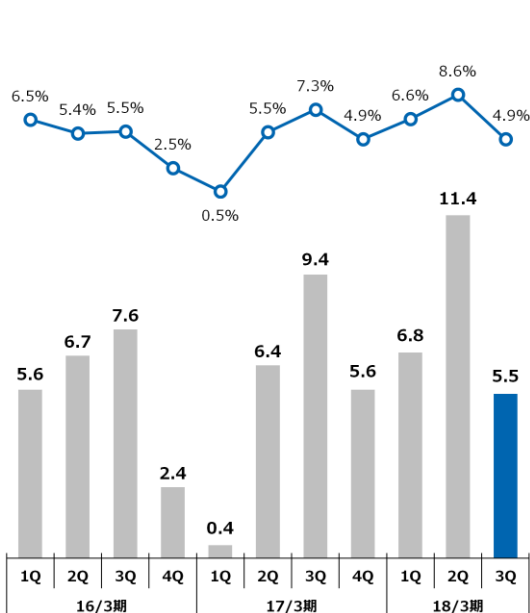
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率



2018/2/7

7

MinebeaMitsumi

電子機器事業セグメントについてご説明いたします。

売上高は1,123億円、前四半期比で16%減となりました。

モーターは前四半期からほぼ横ばいの467億円で、自動車向けを中心に堅調に推移いたしました。

エレクトロデバイスは555億円、前四半期から27%の減少となりました。

需要期を過ぎたことによる減少は織り込んでいたものの、当社の超薄型LEDバックライトに対する需要は堅調で、計画を大きく上回って推移しました。

センシングデバイスの売上高は90億円となり、前四半期比で7%減少しました。

営業利益は55億円、営業利益率は4.9%でした。前四半期比では営業利益で52%減、営業利益率で3.7ポイント低下となりました。

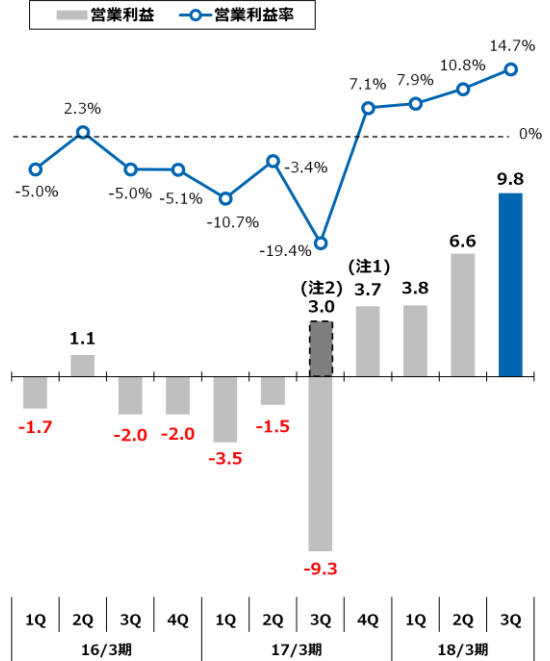
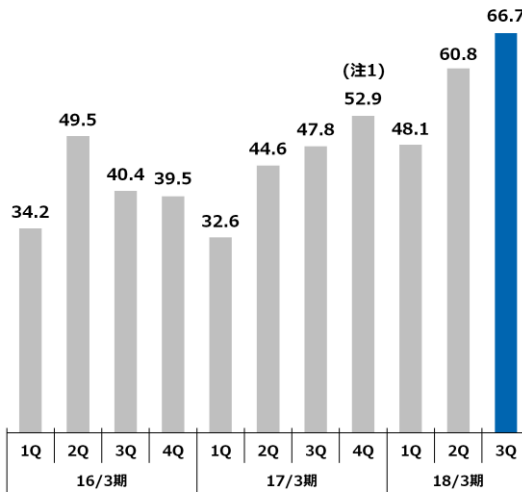
製品別では、モーターは堅調に推移、エレクトロデバイスとセンシングデバイスでは利益が減少しました。

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)

注1: 3ヶ月分の管理会計ベース

注2: 3Qでの在庫評価減△123億円を除く場合



2018/2/7

8

MinebeaMitsumi

ミツミ事業セグメントについてご説明いたします。

売上高ですが、第3四半期は667億円となり、前四半期比では10%の増加となりました。

これは、主に新型ゲーム機器が本格的な需要期を迎え出荷数量が大きく増加したほか、主要顧客向けカメラ用アクチュエーターが増加したことによります。

営業利益は98億円、営業利益率は14.7%となりました。

前四半期比では、営業利益は49%増、営業利益率は3.9ポイントの上昇となりました。

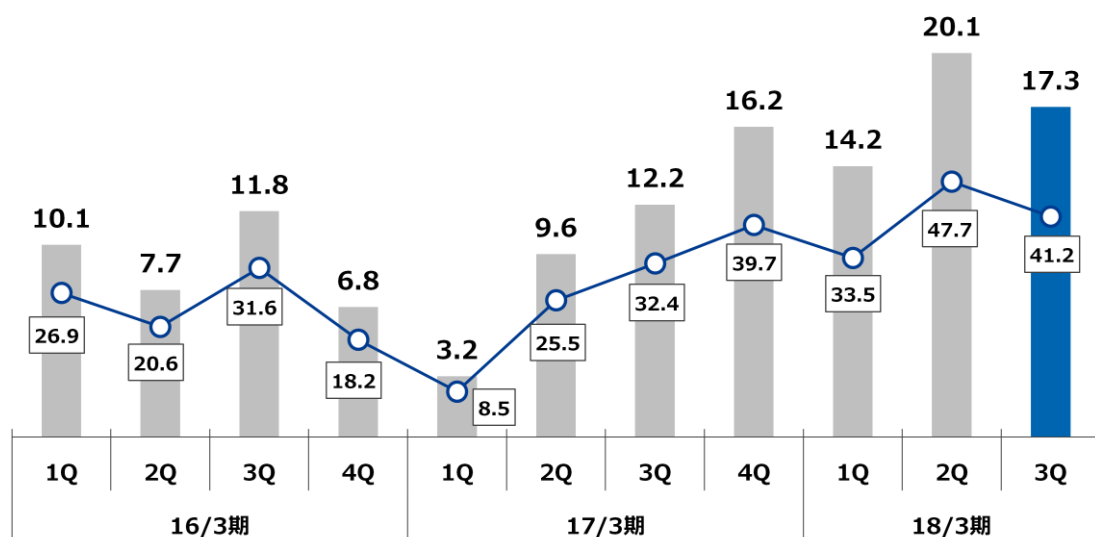
これは先ほど説明させていただきました新型ゲーム機器およびカメラ用アクチュエーターの出荷増に加えて、全体の生産性がさらに改善したことが、収益の底上げに貢献いたしました。

6四半期連続で前年同期比増益

(10億円)

■ 親会社株主に帰属する純利益

○ 1株当たり純利益 (円)



2018/2/7

9

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

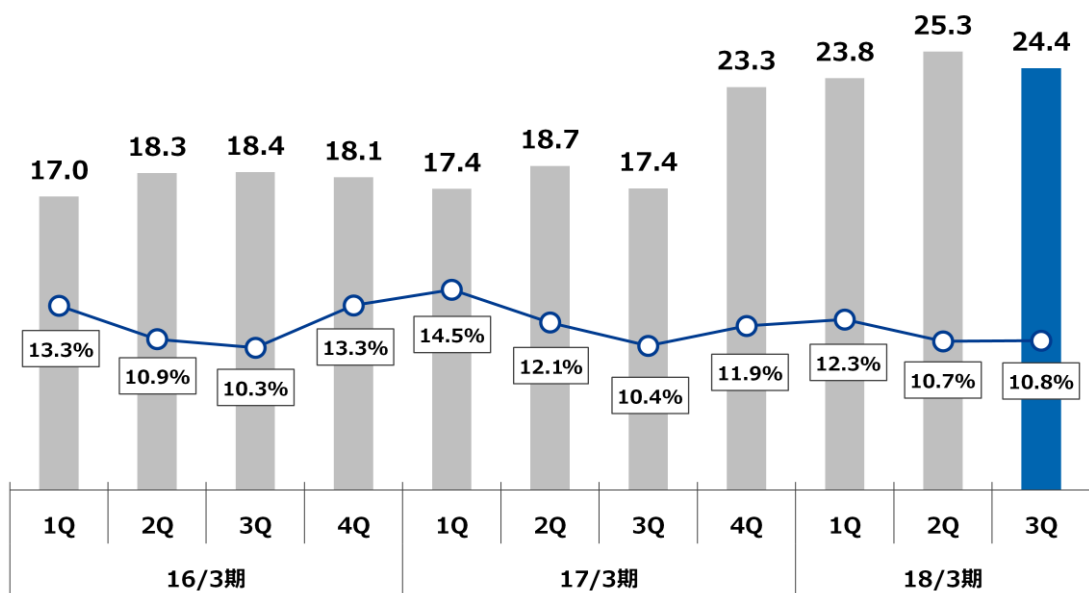
このグラフは、純利益の四半期ごとの推移を棒グラフで、1株当たり純利益の推移を折れ線グラフで表しております。

純利益は、前四半期比で14%減の173億円となり、第3四半期として過去最高を更新しました。1株当たり純利益は、41.2円となりました。

(10億円)

■ 販管費

○ 売上高販管費比率



2018/2/7

10

MinebeaMitsumi

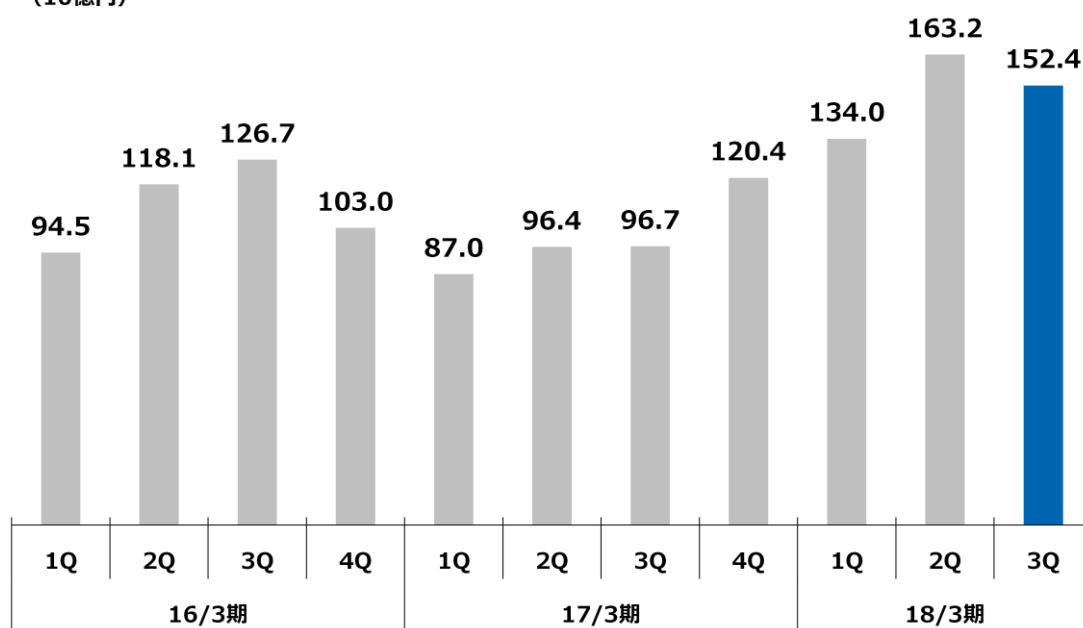
Passion to Create Value through Difference

このグラフは、販管費の四半期ごとの推移を棒グラフで、売上高販管費比率の推移を折れ線グラフで表しております。

販管費は244億円、前四半期比で10億円の減少となりました。

売上高販管費比率は10.8%と、前四半期に続き低い水準を維持しています。

(10億円)



2018/2/7

11

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、たな卸資産の四半期ごとの推移です。

第3四半期末は1,524億円となり、3カ月前と比べると108億円の減少となりました。これには、LEDバックライトが需要期を過ぎたことに伴う減少のほか、Mach Aeroを新規連結したことによる増加13億円が含まれています。

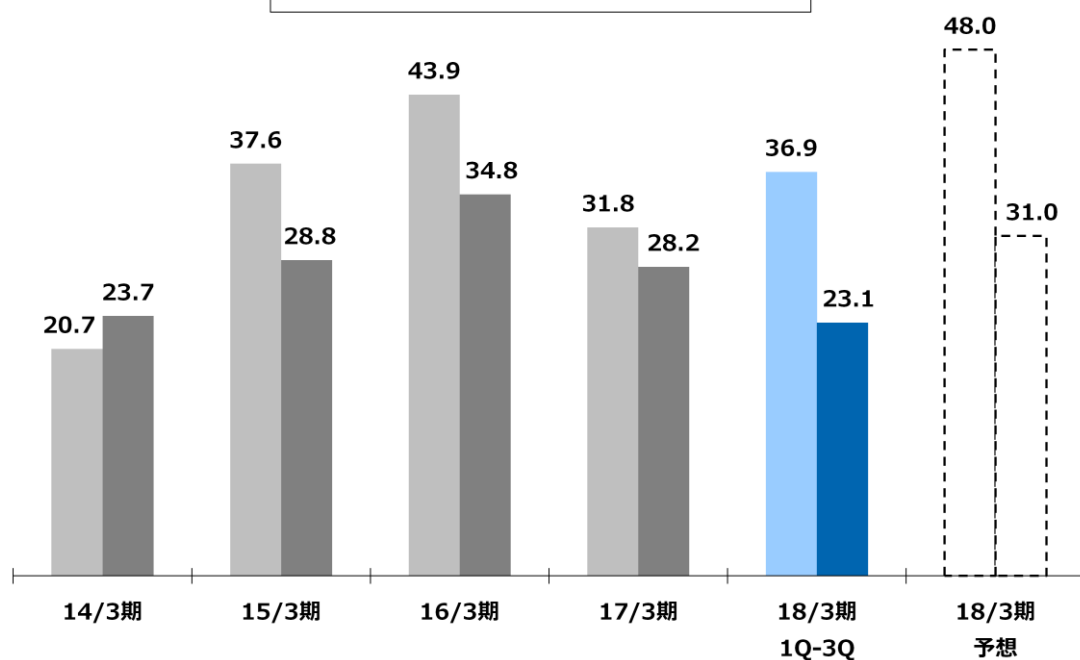
設備投資額・減価償却費

年推移

(10億円)

■ 設備投資額

■ 減価償却費



2018/2/7

12

MinebeaMitsumi

このグラフは、設備投資額の推移を左側の棒グラフで、減価償却費を右側の棒グラフで表しております。

第3四半期の設備投資は369億円、減価償却費は231億円でした。

今期の設備投資総額は、前回予想と変わらず480億円となる見込みです。一方で、減価償却費は前回予想を下回り、310億円となる見込みです。

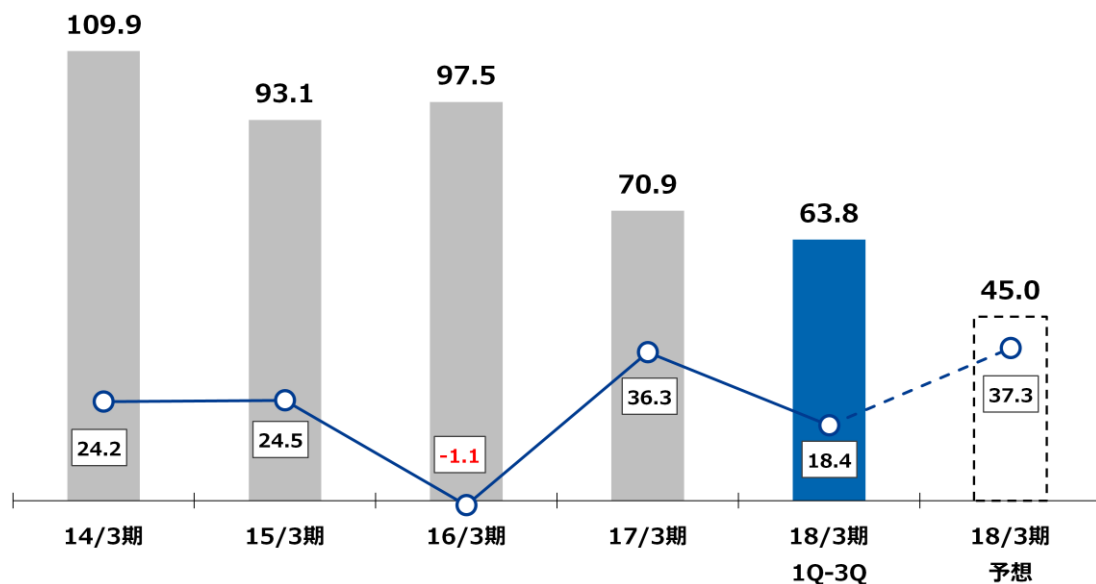
ネット有利子負債とフリーキャッシュフロー

年推移

(10億円)

■ ネット有利子負債

○ フリーキャッシュフロー



2018/2/7

13

MinebeaMitsumi

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しております。

第3四半期末におけるネット有利子負債は638億円となり、2017年3月末から71億円減少しました。

今期は設備投資が増加するものの、利益の拡大によりフリーキャッシュフローは改善し、ネット有利子負債は更に減少する見込みです。

一方で、中期の成長に向けて、積極的なM&Aなども引き続き検討していきます。

業績予想

売上高、営業利益、経常利益、純利益は
すべて過去最高を大幅に更新

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期				
	通期	1Q-3Q累計	4Q予想	通期修正予想	前期比	11月時予想
売上高	638,926	654,927	195,073	850,000	+33.0%	810,000
営業利益	49,015	64,389	15,611	80,000	+63.2%	73,000
経常利益	48,393	64,515	14,985	79,500	+64.3%	72,000
親会社株主に帰属する 純利益	41,146	51,555	10,445	62,000	+50.7%	57,000
一株当たり 純利益 (円)	107.33	122.40	24.97	147.37	+37.3%	135.51
為替レート	17/3期 通期	18/3期 1Q-3Q平均	18/3期 4Q想定	18/3期 通期想定		
US\$	108.76円	111.68円	110.00円	111.26円		
ユーロ	119.34円	127.88円	135.00円	129.66円		
タイバーツ	3.09円	3.32円	3.50円	3.37円		
人民元	16.18円	16.55円	17.25円	16.73円		

2018/2/7

14

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

これは、今期2018年3月期の業績予想をまとめたものです。

今期は、売上高、営業利益、経常利益、純利益のいずれも、過去最高を大幅に更新する見込みです。

第4四半期は、引き続き主力製品であるボールベアリングの旺盛な需要や生産能力の拡張等による増収増益が見込まれる一方、スマホ関連部品等の短期的な需要動向や在庫調整、そして為替前提を前回予想より実勢に近いレートとしたことを勘案し、昨年11月に修正させていただいた業績予想を

売上高について、8,100億円から8,500億円に

営業利益について、730億円から800億円に

経常利益について、720億円から795億円に

純利益については 570億円から620億円に それぞれ上方修正いたしました。

セグメント別業績予想

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期				
	通期	1Q-3Q累計	4Q予想	通期修正予想	前期比	11月時予想
売上高	638,926	654,927	195,073	850,000	+33.0%	810,000
機械加工品	156,310	129,101	44,899	174,000	+11.3%	163,000
電子機器	441,615	349,764	98,236	448,000	+1.4%	418,000
ミツミ事業	40,342	175,551	51,849	227,400	5.6倍	228,400
その他	658	510	90	600	-8.8%	600
営業利益	49,015	64,389	15,611	80,000	+63.2%	73,000
機械加工品	39,147	32,263	11,437	43,700	+11.6%	42,500
電子機器	21,898	23,734	6,266	30,000	+37.0%	27,500
ミツミ事業	2,315	20,135	3,065	23,200	10.0倍	20,000
その他	△120	△145	△255	△400	3.3倍	△400
調整額	△14,223	△11,597	△4,903	△16,500	+16.0%	△16,600

2018/2/7

15

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

株主還元

	17/3期 実績		18/3期 実績/予想
中間配当	7円/株	→	13円/株
期末配当	7円/株	→	13 [*] 円/株
合計	14円/株	→	26 ^{**} 円/株

自社株買いを含めた総還元性向は約30%^{}**

* 18/3期の期末配当は、当期の業績を勘案した上で連結配当性向20%程度を目処に決定の予定

** 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得総額) ÷ 当期純利益

2018/2/7

16

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次に、株主還元策についてご説明します。

昨年11月の第2四半期決算説明会でもご説明させて頂きました通り、今期は1株当たり26円と、大幅な増配を予定しています。

なお、昨年実施しました自社株買いを含めた総還元性向は約30%となる見込みです。

ボールベアリングは次なる成長ステージへ

数量

外販

今期は3回過去最高を更新、年率9%以上で成長中

⇒1月は2億 900万個を達成！

生産

生産性改善で月を追うごとに増加中

⇒増産投資分を加えると来期は3億個を超える生産体制へ！

～需要をけん引する4つの風～

自動車

データセンター

高級家電

小型ロボット

内販と合わせた来期の総販売数量は、
期初から2億8,000万個でスタート！

ボールベアリング外販数量（百万個/月）



コスト

工場ごとの生産品目を最適化させることで発生する段取り替え費用や

輸送費等の一過性費用は第4四半期から解消へ

⇒来期のボールベアリングの収益性は大幅改善へ！

価格

価格政策の見直し（数量重視から品質要求加味へ）で適正な収益性を確保

⇒基幹部品向けや高品質品は、その付加価値に合わせた価格へ

2018/2/7

17

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次に、当社の主力製品であるミニチュアボールベアリングの状況についてご説明します。

今期のボールベアリング事業は非常に強い成長を続けてまいりましたが、来期以降はこの成長がさらに加速すると見込んでおります。その背景を数量、コスト、そして価格の3つの面からご説明させていただきます。

まずひとつ目の数量についてですが、外販数量は、前期までは、毎年月平均で1,000万個程度ずつ成長してきましたが、棒グラフでご覧いただけます通り、今期はその成長ペースが加速しております。速報数値となりますが、1月はついに2億個の大台を超えました。

また生産数量も早いペースで増加しております。昨年4月の時点の月産数量は2億5,000万個でしたが、11月には2億8,200万個、今期中には2億8,700万個まで引き上がる見込みです。

これは生産性改善の取り組みによって実現したのですが、来期はこれに前期に発注した80億円分の増産設備投資の成果が加わるため、3億個を超える生産体制を備えられることとなります。こうした好調の背景には、自動車、データセンター向けファンモーター、高級家電、そして小型ロボットという、4つの大きな風が吹いているという状況があります。

自動車では、省エネ性、安全性、快適性といった面の高機能化が進展し、またモデルチェンジやマイナーチェンジ等のタイミングでその採用も拡大しておりますが、そうした機能の多くにおいて当社のベアリングが使用されているという事実がございます。

その結果として、当社の自動車向けベアリングは、世界の自動車出荷台数の伸び率をはるかに上回って成長しています。さらに、EV化をはじめとしたイノベーションにより、自動車一台あたりに使用されているミニチュアボールベアリングの数も加速的に増加すると見込んでいます。

データセンターでは、最近のある新聞では「爆買い」という表現がされていたように、サーバーの需要が急拡大しています。サーバーはHDDであれSSDであれ、高い熱を発する一方で、高い信頼性が要求されることから、それを冷却するための高機能なファンモーターが使用されます。そうしたファンモーターには当社の高機能なベアリングが使用されていることから、その需要も急激に伸びております。

また高級家電については、さらなる省エネ性を実現するためにモーターの高速回転化、DCブラシレス化が加速しており、結果としてベアリングの需要も大きく拡大しています。

ドローンをはじめとする小型ロボットも同様に高性能なベアリングを使用したモーターを採用しております。

内販数量は、HDD向けは長期的には減少することを想定しておりますが、モーター向けでは増加していくため、今後も堅調に推移すると見込んでいます。来期の総販売数量は、外販の2億個と内販の8,000万個を合わせた2億8,000万個という、今期を大きく凌駕した水準からのスタートとなると見込んでいます。

ボールベアリングは次なる成長ステージへ

数量

外販

今期は3回過去最高を更新、年率9%以上で成長中

⇒1月は2億 900万個を達成！

生産

生産性改善で月を追うごとに増加中

⇒増産投資分を加えると来期は3億個を超える生産体制へ！

～需要をけん引する4つの風～

自動車

データセンター

高級家電

小型ロボット

内販と合わせた来期の総販売数量は、
期初から2億8,000万個でスタート！

ボールベアリング外販数量（百万個/月）



コスト

工場ごとの生産品目を最適化させることで発生する段取り替え費用や

輸送費等の一過性費用は第4四半期から解消へ

⇒来期のボールベアリングの収益性は大幅改善へ！

価格

価格政策の見直し（数量重視から品質要求加味へ）で適正な収益性を確保

⇒基幹部品向けや高品質品は、その付加価値に合わせた価格へ

2018/2/7

17

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ふたつ目のコストについては、製造ラインの段取り替え費用や輸送費等、生産性改善施策の一環で発生していた一過性費用は第4四半期から解消していく見込みのため、来期当初からは大幅に収益性が改善いたします。ただし、足元では急激な需要拡大が続いているため、しばらくこの増産基調が続くと想定されており、来期にも一部特別費用が残る可能性があります。最後は価格についてですが、今後は価格政策の見直しを進めていきたいと考えております。従来の数量重視から品質要求も加味する価格設定をおこないます。具体的には、基幹部品向けや高品質品について、その付加価値に合わせた価格を提案し、見直していくといった活動を予定しております。このように、販売、生産、コスト、そして価格を含め、来期以降のボールベアリングはさらなる成長を見込んでいます。

来期成長への道筋は不変

ボールベアリング	期初（4月）から収益性大幅改善
ロッドエンド	生産性改善とファスナー（航空機用メカパーツ）の改善
ゲーム機器	期初（4月）から力強い需要を見込む
スマホ向け部品	来期の市場拡大と中国向け拡販 （LEDバックライトは来期も堅調の見通し）
モーター	今期売上1,800億円超え、来期も車載向けを中心に堅調に推移 多数の新製品投入

変化に強い強靱な製品ポートフォリオで 来期も大幅な成長！

2018/2/7

18

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次に、来期の成長のポイントについて、5つの観点から、簡単にご説明させていただきます。
まず1番目のボールベアリングについては、先程のスライドでご説明させていただいた通り、非常に強い成長を見込んでおります。

2番目のロッドエンド・ファスナーについては、これまでの生産性改善施策が奏功し、収益性が着実に改善してきています。加えて、中小型航空機の増産を中心に需要面でも強い追い風を受けており、来期は大幅な増益を見込んでいます。

3番目のゲーム機器ですが、来期は期初から力強い需要を見込んでおり、それにに向けた生産体制の準備も着々と進んでおります。

4番目のスマートフォン向け部品ですが、当社の超薄型LEDバックライトは、コスト面、品質面、供給面でお客様から非常に高くご評価頂いており、来期も堅調な需要を見込んでいます。

また、カメラ用アクチュエーターについても、スマートフォンの高級化に伴って、搭載比率がさらに高まると予想しています。また、中国のスマートフォンについても、ミドルレンジを含めて積極的に拡販していくことで、さらなる成長を見込んでいます。

最後に5番目のモーターですが、今期はモーター事業としての売上高は1,800億円を超える見込みで、来期も拡販できる見込みです。その中心となるのは車載用モーターで、来期以降、高級車向けアクティブ・グリル・シャッターなどの多数の新製品を市場に投入する予定です。

今後も長期にわたって、モーター事業は非常に力強い成長を見込んでいます。

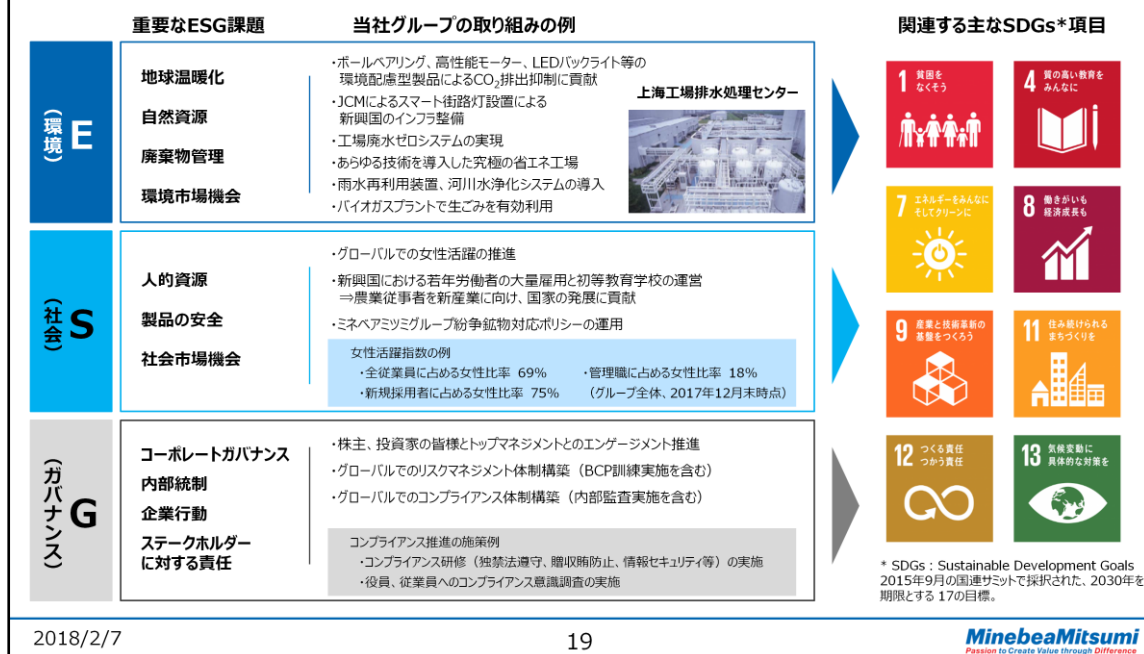
このように、当社では市場や顧客動向の変化に強い強靱な製品ポートフォリオのもと、来期も力強く成長していきます。

現在のところ、来期に収益が大きく低下すると予想される製品領域はありません。

詳細は5月の通期決算説明会でご説明させていただきます。

当社の持続的成長を可能とする源泉－ESGへの取り組み

社会からの要請にこたえ、ESG活動を推進し 当社は持続的に成長いたします



次に、当社のESGへの取り組みの概略についてご説明します。

当社グループにおきましても、持続的な成長を目指し、また社会からの様々な要請にお応えするために、ESG、すなわち環境、社会、ガバナンスの各分野に積極的に取り組んでおります。

それぞれの分野において、当社の具体的な取り組みの一部を、簡単にご紹介させていただきます。

Eの環境では、まず、当社のほぼすべての製品は環境配慮型製品となっており、それらを開発・販売することで、地球温暖化や廃棄物削減等の環境課題の改善に大きく貢献しています。具体的には、ベアリングは、強みである超精密加工技術を生かし、摩擦を究極まで低減することにより、さまざまな製品の省エネに貢献しています。そのほかにも、エネルギー効率の高い高性能モーター、光(エネルギー)の利用効率を究極まで高めたLEDバックライトなども、省エネにおおきく貢献している製品です。

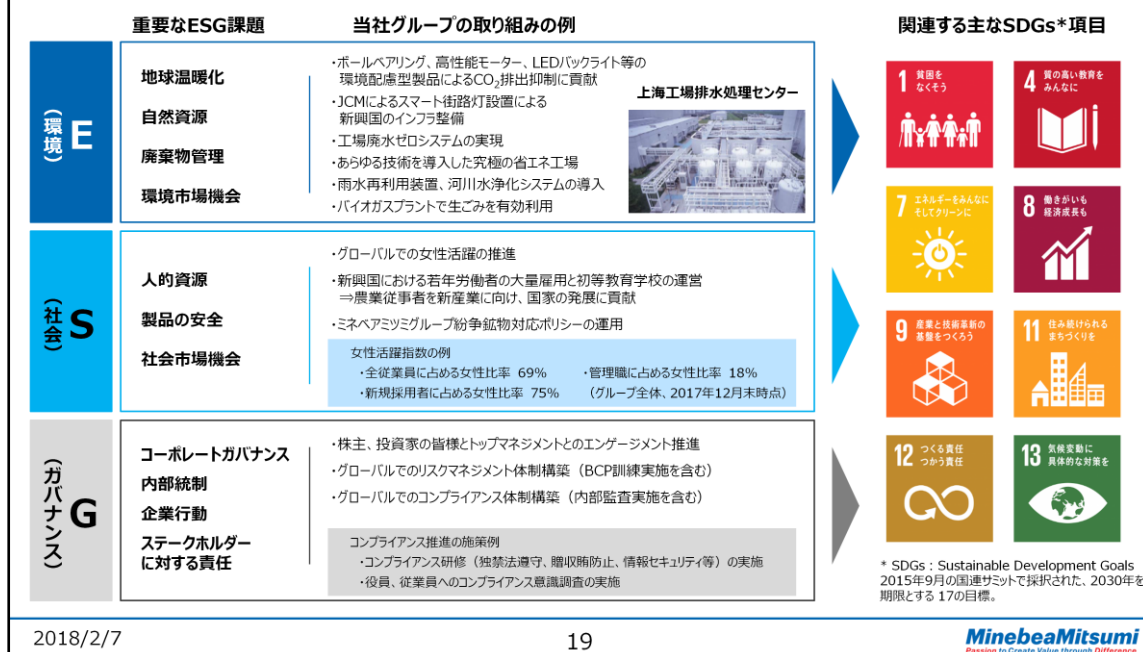
また、例えば、カンボジアでは、環境省によるCO₂排出権取引であるJCM(Joint Crediting Mechanism、二国間クレジット制度)プロジェクトに参画し、プノンペン市内やアンコールワット周辺等に当社のスマート街路灯を設置することで、最先端のスマートシティを構築するとともに温室効果ガスの排出削減に取り組んでおります。

加えて、「ミネベアミツミグループ環境方針」のもとで、当社グループ工場での工場廃水の完全回収、再利用をおこなう最先端排水ゼロシステムの導入や、LED照明や遮熱塗料の使用をはじめとしたあらゆる技術を活用した、究極の省エネ工場の実現等の施策を積極的に推進しております。

このように、当社は、環境配慮型製品の開発・販売に加えて、新興国におけるインフラ整備・産業振興、環境負荷低減活動などを融合させる活動を通じて、環境改善と経済価値の創造に取り組んでいます。

当社の持続的成長を可能とする源泉－ESGへの取り組み

社会からの要請にこたえ、ESG活動を推進し 当社は持続的に成長いたします



2018/2/7

19

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

Sの社会では、当社グループでは、ロボットの導入を含めた生産ラインの自動化や設備の内製を含めた合理化を徹底的に推進しています。

一方で、労働集約に適した製品はコスト競争力のある地域での製造を行う等、製品の特性やお客様のご要望に応じて柔軟な生産体制を構築しています。

この他社にない「製造」における「引き出しの多さ、多様さ」が、当社の競争力の源泉のひとつとなっています。

この競争力を強化するための施策のひとつとして、当社では、積極的に女性を活用しております。当社グループには約10万人の従業員がいますが、そのうち約70%が女性であり、また管理監督職においても約20%が女性となっています。業務の特性に合わせて、能力の高い女性を積極的に活用し、高品質製品を安定的に世界のお客様に供給しております。

また、当社は、1970年代以降、業界に先駆けてシンガポールやタイなどに積極的に進出いたしました。その後、時代の変化にあわせ、各地で超精密加工技術の向上や装置化による自動化技術の研鑽を続け、労働集約型の製造からの構造転換を図ってきました。

この過程で多くの当社現地従業員を、技術や技能の修得、向上のために、日本を始めた世界各地に派遣することを通じて人材を徹底的に育成して参りました。

これらの活動を通じて当社グループ従業員が獲得した製造におけるDNAが、当社の製造力を根本からささえています。

加えて、近年では、カンボジアやフィリピンなどのアジアを中心とする新興国で若年労働者を大量に雇用しておりますが、それらの地域では当社独自の教育カリキュラムや福利厚生を整備、提供しています。

具体的には、貧困地域や農業従事者が大半を占める地域においては、就業規則や作業標準といった基礎教育に加えて、衛生管理や衣食住といったディシプリンの指導も行っています。

また、初等教育の水準に課題がある地域では、母国語の教育学校を運営して識字率の向上にも取り組んでいます。こうした活動は地元政府や社会から高くご評価いただいております。また、当社グループの経済価値の創出につながっています。

Gのガバナンスでも、コーポレートガバナンス、内部統制といった課題に対して、グローバルでのリスクマネジメントおよびコンプライアンスの体制の構築とその推進を通して、さらなる強化と改善に取り組んでいます。なお、これらの活動が関連する主なSDGsの項目については、スライドの右側をご覧ください。

Passion to Create Value through Difference

常識を超えた「違い」で新しい価値をつくる



世界最小ハンドスピナー*1



世界最長ハンドスピナー*2

*1: Smallest fidget spinner、認定日：2017年11月14日、認定数値：5.09mm

*2: Longest duration spinning a fidget spinner on one finger、認定日：2017年12月11日、認定数値：24分46.34秒

2018/2/7

20

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらのスライドにつきましては、既にプレスリリース等でご案内の通りです。
当社のコーポレートスローガンである「Passion to Create Value through Difference」にあるとおり、今後も常識を超えた「違い」を徹底的に磨き、他にはない新しい価値を生み出していけるよう、努めてまいります。



本資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。